

やないづ 議会だより

TOPICS

- | | | |
|------------|--------------------------------|--------|
| ・トピック1 | 議会行政調査 | 2ページから |
| ・トピック2 | 第2回定例会 | 4ページから |
| ・トピック3 | 一般質問 | 6ページから |
| 1番 小林 浩 議員 | 柳津町における学校教育の充実について | |
| 7番 松村 亮 議員 | 移住・定住・交流について | |
| 6番 岩淵清幸 議員 | 上下水道インフラへの対応について | |
| 3番 渡邊俊典 議員 | 1 会津柳津駅舎について | |
| | 2 会津柳津駅の改修後の観光等に
及ぼした効果について | |



Yanaizu

No.187

2026.8.28

昭和の頃の麻生の渡し

令和8年夏 夕暮れの麻生大橋

<http://www.town.yanaizu.fukushima.jp/>

柳津町

検索



山梨県小菅村

6月17日(水)

効果的・効率的なむらづくりを調査



山梨県

小菅村は山梨県北東部に位置しており、約95%の森林面積を有する多摩川の源流域となっている。人口は約600人程度で、高齢化率45%超の中山間の村である。地域づくりのビジョンとして、定住人口だけではなく、関係人口・支援人口を含めた「共創人口」の拡大を掲げている。

「共創人口の拡大」という共通目的のもとで、物流・観光・移住・産業をパッケージ化している点が印象的で、SWOT分析（効率化に利用される分析方法）やデータ活用など、施策立案が企業的で政策に反映されていた。行政が抱え込まず「村内プレイヤー育成や外部連携で体制を組む」ことで複数の事業を並行して推進していた。



村内の良い空き家を有効活用して外部宿泊業者の誘致を達成し、物流・観光面の支援を村全体で行って効率を上げ、移住・定住、産業の活性化まで、一度に行う複合的な取組を実施している。

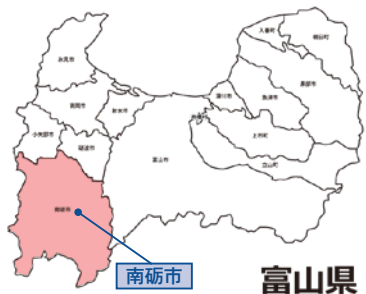
富山県南砺市 井波

6月18日(木)

伝統産業×宿泊（分散型ホテル）
民間主導型事業を調査

南砺市井波地域は、古くから木彫刻等の職人文化が集積しているところで、宿泊者は工房体験ができる。そして、宿泊だけでは完結させず、飲食店・商店・工房などが協力し、消費を循環させる地域づくりをしていた。その効果は文化の向上、職人支援・後継者育成にも波及している。

また、民間の発想力と実行力により「空き家の利活用・宿運営」を実施して成果を上げている。行政は「やる側」よりも「役割分担」などを行い、事業の方向性や資源配分、生活環境の整備を担っていた。



富山県





井波の町並みは整備されており、工房が建ち並び、様々な彫刻に至るところで見ることができる



空き家を利用した民間の宿泊場
古い民家の内部は和洋式が折中した癒しの空間が広がっている。
不動産業と宿泊業の協働が成果を上げている。

富山県南砺市 瑞泉寺、高岡市 瑞龍寺

6月19日(金)

歴史的建造物の動向を確認

国宝・重要文化財級の寺院では、平日でも参拝者が多く、参道の店舗もおもてなしの機能を十分に果たしていた。寺院を核にした整備、参拝者の周遊ルートづくりの重要性を再確認した。



瑞泉寺



瑞龍寺



寺院をめぐる案内看板



第2回定例会の主な議案

第2回定例会は6月10日（水）から6月12日（金）までの会期で行い、専決処分の承認、条例の改正、補正予算などを審議し、全議案、原案どおり可決しました。

「柳津町税条例の一部を改正する条例」の専決処分

国による地方税法の一部改正により令和8年4月1日付で専決した条例の一部改正を承認した。

【理由】米国の関税措置の影響を緩和し、国内自動車市場の活性化を図るため、自動車税の環境性能割が今年4月1日に撤廃されたため。

「柳津町国民健康保険税条例の一部を改正する条例」

国の子ども・子育て支援法等の一部改正により、すべての医療保険の保険料から「子ども・子育て支援金」が徴収されるため、町の国民健康保険税の中に「子ども・子育て支援納付金分」を新設する改正を可決した。

「令和8年度柳津町一般会計」と3つの特別会計と2つの事業会計の補正予算

4月1日の人事異動による人件費の増減や国の子ども・子育て支援制度の創設、物価高騰対策事業の関連予算の増額などを主とした補正予算を可決した。



「固定資産評価審査委員会委員の選任」

二瓶俊一氏が令和8年6月30日をもって任期満了になることから、同氏を再任することに同意した。

「消防用小型動力ポンプ普通積載車の購入」

地方自治法と議会に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例により、石神班の消防用車両が約30年を経過し更新時期となったため、新たな車両を購入する契約を可決した。

【契約金額】1,355万2千円 【契約相手】会津消防用品株式会社(会津若松市)

「除雪機械の購入」

西山事業所に配備された除雪機械が30年を経過し劣化しているため、新たな除雪機械を購入する契約を可決した。(14トン級除雪ドーザ及びロータリー除雪装置)

【契約金額】4,741万円 【契約相手】会津機械株式会社(会津坂下町)

「気化熱冷風機等の購入」

昨年度内閣府より採択を受けた「令和7年度地域未来交付金」を活用し、熱中症対策、災害避難所用品として、各学校及び運動公園の体育館に大型の気化熱冷風機と停電用の発電機を購入する契約を可決した。

【契約金額】1,292万5千円 【契約相手】三愛化成商事株式会社(東京都)

「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」 【総務文教常任委員会付託案件】

東日本大震災より15年が経過したが、引き続き被災した就学児童等の支援は必要であり、令和9年度も継続を求める意見書を国の関係機関に提出することを可決した。

【陳情した団体】福島県教職員組合

質疑されました

第2回定例会の議案審議

第2回定例会では、主に補正予算と物品購入についての質疑応答が行われました。その一部を要約してご紹介します。

【質問】 町民センター照明のLED化について（渡邊）

2027年以降には蛍光灯が販売されなくなるので、町の施設で、かなりやらなくてはいけなくなるはず。補正予算ではなく年次計画を組むべきではないか。

【答弁】（町長）

今年度の予算編成にあたり、緊急性を要する場所を上げた中で、優先順位を決めて配分した。来年度は、その先、どういうふうにしていくかを計画的にしていきたい。

【質問】 物価高騰対策による水道使用料の減免について（岩淵）

国の物価高騰対策による事業だが、簡易水道に加入していない未普及地区に対する補助はあるのか。

【答弁】（建設課長）

未普及地域については対象外とさせていただいたが、町民課で補助しており、補助率を上乗せすると聞いております。

【答弁】（町民課長）

未普及地区の施設改修について、75%の補助をしているが、10%程度で率上げを検討しています。



水道メーター
使用量を測定する

【質問】 林道災害復旧費の増額について（松村）

災害箇所の修繕の主な内容が路肩補修ということだが、どの程度の被害状況なのか。

【答弁】（建設課長）

林道新鶴柳津線（大規模林道）の高森集落付近、山側の暗渠排水が詰まって、水があふれ、谷側の路肩が崩落した。

【質問】 気化熱冷風機等の購入について（磯目）

体育館へのエアコン導入に向けた改修は検討していなかったのか。また暑い体育館の中で気化熱冷風機を使用すれば、湿度が上昇し、逆に熱中症の危険性も高まることになるのではないか。

【答弁】（教育長）

経費的な問題があって、すぐに対応することは難しいので、待ったなしでの熱中症対策を考え、まずは冷風機等の導入を進めている。

【答弁】（教育課長）

気化熱冷風機は温度と湿度の密接な関係があり、熱中症リスクもあるが、換気をしながら使っているという話を伺っている。状況を見極めて使っていくようになると思う。



【採決】 賛成7、反対1で可決

議員名	小林 浩	新井田順一	渡邊俊典	岩淵清幸	松村 亮	田崎信二	荒明正一	磯目泰彦	齋藤正志
賛○否×	○	○	○	○	○	○	○	×	議長

今後の学校教育の充実をどのように 図っていくのか



1番 小林 浩 議員
こばやし ひろし



教育長 まずは課題を最優先にした 協議等を行ってまいりたい。

Q 学習状況調査などの結果を踏まえ、学校教育アドバイザーを中心に指導を行っている。また町教育研究会では小中9年間を見通した推進を図っている。ICT支援員や英語指導助手、支援を要する児童生徒のための教育支援員の配置も行い、学校運営協議会の熟議を反映しながら教育環境の整備充実に努めている。

A (教育長) ①全国学力・学習状況調査などの結果を踏まえ、学校教育アドバイザーを中心に指導を行っている。また町教育研究会では小中9年間を見通した推進を図っている。ICT支援員や英語指導助手、支援を要する児童生徒のための教育支援員の配置も行い、学校運営協議会の熟議を反映しながら教育環境の整備充実に努めている。

②児童生徒数は減少の一途をたどり、議会や振興計画審議会より学校のあり方の検討を求められている。学校適正配置等検討委員会を組織し、会議の開催を予定しており、教育環境の充実を最優先に協議等を行っていききたい。

③令和4年度から検討会議を組織し関係者と運営方針の協議を行ってきた。令和7年度には地域移行を加速するため、学校・地域スポーツアドバイザーを配置し協議を重ね、昨年10月より試行的に開始したが、地域クラブで活動する生

Q 少子化や社会環境の変化により、学校教育を取り巻く環境は大きく変化しており、今後の方針等について次の3点を伺う。

①学力向上と教育環境整備

②今後の学校のあり方

③部活動地域移行の現状等

徒もいるので、検討していく必要があると考えている。

Q 学校教育アドバイザーの指導について伺う。

A (教育長) 調査の分析や考察により課題を明確にし、授業の充実・改善につながるような指導助言を行っている。

Q 全国学力調査等による本校の強みと課題の分析について伺う。

A (教育長) 全国レベルにあると捉えている。「学びに向かう力」の育成が課題と考えている。自己マネジメント力を伸ばすための学習を経験させたい。

Q 教育支援員の配置により支援体制は十分と考えているか。

A (教育長) 西山小学校、柳津学園中学校は体制が整っていると思う。柳津小学校は人数的には充実しているが、落ち着いて学習できる体制づくりの指導助言を行っている。

Q 近年、熱中症対策が課題となり、学校体育館は災害避難所も担っている。国県補助制度を活用した空調設備整備は、どのように考えているか。

A (教育課長) 空調整備も必要と考えているが、まず気化熱冷風機を導入し対策する判断をしている。

Q 学校の在り方について、小学校の統合のみならず、小中一貫教育の検討も必要と考えるが、どのような考えを持っているのか伺う。

A (教育長) 小中連携教育9年間、さらに保育所から15年間で育ていく体制について、具体的に検討してまいりたい。

Q 学校統合の検討に保護者や地域住民の意見をどのように反映していくのか。

A (教育課長) ご意見は広く収集、集約し、よりよい教育環境の実現につなげていきたい。

Q 学校は地域コミュニティの役割も担っているという視点で検討する考えはあるか。

A (教育課長) よりよい教育環境整備を最優先に検討していきたい。

Q 昨年10月から試行的に地域移行部活動を実施しているが、どのように評価しているか。

A (教育長) 大きな混乱はなく進められたと考えている。

Q 生徒や保護者、教職員から、どのような意見や要望が寄せられているか。

A (教育長) 平日と同じ時間帯で移動ができればありがたい。また遠隔地の練習試合の移動は大きな課題と捉えている。

Q 学校地域スポーツアドバイザーは重要な役割を担っており継続配置を検討すべきと考えるがいかがか。

A (教育長) 引き続き、スポーツ活動や関係団体へ指導助言を行ってもらえるように、次年度の予算編成までに条例の改正または制定を進めたい。





7番 松村 亮 議員

移住・定住・交流の施策について質します

町長

子育て支援を継続拡充し、公営住宅の目的外改修、空き家を活用した移住定住促進住宅の整備などを進めたい。



Q 本分野における小林町政通算2期の振り返りについて伺う。

A (町長) 子育て支援の充実、定住促進住宅や独身住宅の整備、新築住宅への補助、芝生公園、空き家バンクの整備、交流事業を実施し、成果はあったものと認識している。

Q 実施事項が列挙されたことは分かるが、成果があったとする定量的・定性的な評価基準は何なのか。

A (みらい創生課長) 成果の定量的・定性的な評価基準の大きな定めというものはない。

Q 2025年の国政調査では、県で6・6%の人口減、当町では15・3%減。町長の受け止めを伺う。

A (町長) 人口減少を食い止める、維持する、増加に転じる施策を打つことは、現実的ではないと考え、減少曲線を緩やかにしていくことに力を注いでいこうと考えている。

Q これまでの延長線上で事態が好転に向かうか疑問を持っている。足元の住環境整備において、まず公営住宅老朽化の認識を伺う。

A (建設課長) ご指摘のとおり、老朽化が目立ってきている。

Q 公営住宅の目的外改修が新たに予算化されたが、移住・定住の施策であれば、具体的にどれくらいを見込んでいるのか、それとも、既存のストック(在庫)点検の意味合いなのか。

A (建設課長) 対象は、大平団地1号棟1部屋。目的は移住・定住の両方。ストック点検も議会で指摘があったとおり、修繕すべきところを併せて進めていく。

Q 国交省の財産処分基準に照らし合わせ、町の判断で処分・転用できると思うがいかがか。

A (建設課長) 公営住宅に関する規定が緩和されているので、国県と相談の上、柔軟に進めてまいりたい。

Q 公営住宅を幅広い年齢層に開放するため、用途廃止、特定公共賃貸住宅への指定替え、裁量階層の再定義の3つの法的アプローチを踏まえ、本腰を入れて調査するお考えはあるか伺う。

A (町長) 有効に活用していく考えは強く思っており、あらゆる可能性を探っていく。

Q 空き家バンクという情報の仲介だけでは、若い世代が求める持ち家需要に十分ではないと思うが、どのようなお考えをお持ちか。

A (みらい創生課長) 空き家バンクは1つの手法であり、若い世代に十分応えられてはいない。

Q 行政が土地を確保し、宅地造成する町自らがディベロッパーとなる本流の住宅政策に立ち返るべきでは。

A (町長) 議会と協議を重ねてきた経緯もあり、予算意見書でも、うたわれている。今後しっかりと前に進めていく。

Q 今のタイミングで実行に移していかなければ町の住居政策が向こう10年間でストップしてしまう危機感を抱いている。猶予のなさを、どのように捉えているか。

A (町長) 場所選定から分譲開始まで、かなりかかってくると想定している。可及的速やかに、議会と今後の協議を進めながら、早く進めていきたい。

Q 町長が思っている、みらい創生の着地点、持続可能な、まちが見えてこない部分がある。言語化できるものがあれば伺う。

A (町長) 町が縮んでいく弊害として、町民にとっての痛み、不安が出てくるが、いかに和らげていくことができるか考えている。「近き者説び、遠き者来る」という言葉を体現していくようなまちづくりを、事業、政策を通して実現していきたい。



上下水道インフラの老朽化対策をお聞きします



6番 いわぶちきよゆき 岩淵清幸議員

町長 関係機関や近隣町村の動向を注視して整備等をしていく。



Q 老朽化が進み水道管や下水道施設の更新時期が近づいてきているが、その更新計画はできているのか。また、その費用負担が一般財政へ及ぼす影響について、どう考えているのか伺う。

A (町長) 経営戦略やアセットマネジメント(資産管理)計画に基づき、設備の更新を年次計画で実施していくため、関係機関等を含めて協議していくが、費用を他会計補助金に依存しており、自主財源は人口減少の影響もあり、減少傾向が著しい。今後の対策を実施するためには、さらなる国県補助金等の財源確保が必須となる。

去処分だが、埋め殺しとなっているものの撤去義務はないので、適正に管理、見守っていくというスタイルになる。

Q 下水道業務継続計画(BCP)が策定されていると思うが、災害想定や非常時優先業務体制など、その内容について伺う。

A (建設課長) 来年度策定予定の下水道ストックマネジメント(維持管理実務)計画の先駆的な計画であり、修繕事業や災害時連絡体制、非常時優先業務などをうたっているが、あくまでも簡易的な書き方となっている。災害発生時は町防災計画に基づき上下水道の業務に当たるので、それに準じる形となっている。

Q 簡易水道経営戦略によれば令和14年度以降の更新費用が年1億5千万円とされている。高額な費用をどのように捻出するのか。

A (建設課長) 昨年度策定したアセットマネジメント計画等の中で試算した

すべてを簡易水道化することは難しいと考えている。

Q 人口減少や高齢化などにより上下水道料金収入が減少傾向にある。今後、多額の更新費用が見込まれているから、経営戦略には「料金改定の検討」が記載されているが、その可能性を伺う。

A (町長) 町民の負担はなるべく増やしたくない。料金を上げて大きな部分にならない。もっと、施設の再編や統合などによって経費を削減できるのではないかと考えている。人口減少の変化を計画に入れていくことが必要なのではないかと思っている。

A (建設課長) 昨年度からの柳津浄水場の整備と造成工事の終わりを令和10または11年度としているが、終わり次第、着工する予定。

Q 町国土強靱化計画に明記されている麻生地区の柳津給水区統合の着工年度を伺う。

Q 柳津町には簡易水道未普及地区があるが、これらの解消に取り組む必要があると考えているか。

A (町長) 大変お金のかかる事業であり、かなり先の計画予定も入っている。





3番 渡邊俊典議員
わたなべとしのり

駅舎改修と観光への効果について質します

町長

駅舎改修の問題点は修繕等で対応していきたい。効果の向上を歴まち計画等と合わせて進めていきたい。



Q 設計図面を見たが、わずか3、4cmを元のコンクリートにワイヤーメッシュも入れず、メタルラスも入

A (町長) 議員おただしの亀裂や桁の塗装も確認している。当時の面影を限りなく残し、地域の方々と観光客になじみの深い駅舎の改修には、活用できるものは利活用して進めてきた。総点検というより不具合や日常的な点検を徹底し、支障がないよう維持管理を進めていく。なお、今後、安全管理面で支障等があれば、施工業者等と協議をさせていただき判断してまいりたい。

Q 会津柳津駅がリニューアルオープンして3年目を迎えたが、指摘した床の亀裂の対処方法について伺う。入り口付近の亀裂が広がり、僅かながら浮きが生じたように見受けられ、このままだと剥離のおそれがある。外部犬走りにも大きな亀裂があり、同じことが起こるのではないか。またホーム南側の桁の木部分の塗装が大きく剥がれているので一度、改修部分の総点検をすべきではないか。

Q 元は柳津駅で降り、観光バスが虚空蔵様に案内して参拝した後に道の駅に寄って赤べこ絵付けなどをしたが、今はなくなっている。駅利

A (町長) 駅舎は約100年経過した歴史的な建造物で、今回の改修工事は歴史を損なうことなく可能な限り忠実に復元し、皆さんの思い出を大切にしていこうということになった。柱や梁についていた傷や汚れなども残っており、傾きを補整した跡もそのまま残っている。床のひび割れも、強度や機能上の支障がないのであれば、昨年の簡易な修繕で完了したと認識している。管理上、使用上で不具合を発見したとき、その都度、修繕等に対応してまいりたい。

れない。割れるのは当たり前で、塗装もあんなに大きく剥がれるっていいのはおかしい。PL法も責任施工もあるし、3年以内に不良施工が出た場合には、調べて指摘したら、どうですかと聞いている。

A (町長) まちなかを回遊、歩いて観光しても見えるような観光を目指したい。そのために今、歴まち計画を進めており、自然景観と

Q 駅で降りた方は徒歩なので、斎藤清美術館まで何キロ、こちらの方向ですとか、そういう看板。駅に来たら、どこどこまで何キロ、徒歩で何分とか。そういうことにして駅に来て駅を使ってもらうってことが基本ではないか。車で来た人たち、よほどでない、そのまま国道で行ってしまうので、駅を維持していこうとするには、町の中心に何かメリットを生み出すような方向がなければいけないと思うが、どう考えているのか。

A (地域振興課長) 委託をしているが、駅舎を訪れた方の数であり、委託時間内でのカウント数ということになるので、当然、駅を利用されるお客様や町民の方が、全て含まれております。

用状況をどのような統計で出しているのか。

A (町長) 今、まちなかでは空き店舗が目立ってきており、町では地域おこし協力隊など、若い人の呼び込みをしている。昼間から夜まで歩けるような町並みをつくっていくためには若い人たちが必要になってくるので、しっかりと応援できる仕組みづくりをしていきたい。

Q 町に長く滞在していた源、例えば銀山煙突。日本でも残っているのは珍しい。そういうところで増やすか、町の中に魅力をつくり出すか。やっぱり、そういうことをしていくべきと思うが具体的に考えていることがあるか。

歴史景観を調和させ、きれいな景観づくりや周遊イベントを支援し、道の駅の再編などで拠点をつくり結んでいく取組をしている。一日にしてなり得る事業ではないが、地道に進めていきたい。また、看板は歴まち計画で統一していきたいと考えており、設置したいという話もあるが、固まるまで待つてくれというような話をしている。



第4回臨時会の主な議案

第4回臨時会は7月16日（木）1日間の会期で行い、令和8年度一般会計補正予算の1件が審議され、原案どおり可決しました。

「令和8年度柳津町一般会計補正予算」

国の物価高騰対策地方創生臨時交付金の追加交付を受け、町の物価高騰対策給付型商品券の追加発行するための補正予算を可決した。

（主な内容）町民1人당に3千円の商品券を交付するための業務委託料

8,601千円

令和8年度の議会モニターを委嘱しました



6月10日（水）正副議長室において、議会モニター委嘱状交付式を行いました。

「議会の運営に関すること」を主題として、議会定例会の会議や議会だよりを見ていただき、町民からの視点でご意見（例えば「説明が難しい」など）をいただき、今後の議会運営の改善に取り組んでいきます。

鈴木 早苗さん（小ノ川）
金子セツ子さん（砂子原）
佐々木憲一さん（猪 鼻）
目黒 竹男さん（野老沢）
目黒 和子さん（野老沢）

令和7年度会計の決算審査が行われました

7月21日（火）から9日間の日程で令和7年度の町会計の決算審査が行われました。

この監査は、地方自治法、地方公営企業法、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき実施されるもので、決算における財務諸表の正確性を検証し、予算の執行、事業の経営、基金の管理状況等が適正で効率的に行われているかを検査し、9月定例会において報告することが義務付けられております。



過去の一般質問を 動画で見られます



過去に行われた委員会代表質問や一般質問の映像を町の公式ホームページから視聴できます。

**パソコン、スマホ、タブレット端末
などご利用になれます。**



町公式ホームページURL
<http://www.town.yanaizu.fukushima.jp>

第3回定例会のお知らせ

**次回の定例会9月4日(金)
開会予定です。**

初日は「一般質問」を行います。
ゆきげ館とふれあい館で視聴できます。

**9月4日(金)
午前10時から**



令和8年度全国町村議会議長・副議長研修会

5月26日（火）東京国際フォーラムにおいて、全国町村議会議長会主催の令和8年度町村議会議長・副議長研修会が開催されました。柳津町議会からは齋藤議長と磯目副議長が参加し、地方自治の課題として、地域未来戦略や外国人材の確保育成、男女共同参画についての講話を拝聴いたしました。

※右の写真は「女性模擬議会の取組について」をテーマにした蔵王町議会の女性議員によるパネルディスカッションの様子です。



柳津町議員定数検討委員会を設置

現在の議員の定数については各市町村の条例で定めることになっておりますが、以前には人口に応じた議員定数の基準が存在していました。現在、国会から地方議会に至るまで、議会改革の波が押し寄せており、議員報酬の改定と併せて議員の定数についても見直しが図られています。柳津町議会でもこの動きに合わせ、定数についての検討をしていくこととなりました。

齋藤議長が会津柳津学園中学校で講話

柳津町立会津柳津学園中学校では、毎年3年生を対象とした町議会議長の講話を行っています。

今年は6月1日（月）に実施され、「持続可能な柳津町をつくろう」をテーマに、町の現状や課題を中心に、お話をいたしました。

今年の秋には「中学生議会」が予定されておりますが、その参考になれば幸いです。



第25回両沼地方町村議会議員交流会

7月10日（金）つきみが丘町民センターにおいて、両沼地方町村議会議長会主催の第25回両沼地方町村議会議員交流会が開催されました。

両沼地方7町村の議会議員のほか、会津地方振興局長、両沼地方選出の県議会議員、両沼地方7町村の町村長などが集結し、交流人口による地方創生をテーマにした講演を拝聴して、お互いの課題について話し合いながら親睦も深めました。

演題 「都市と地方をかきまぜる」

講師 株式会社 雨風太陽 代表取締役社長 高橋 博之 氏

（2024年設立 内閣官房が主宰する「新しい地方経済・生活環境創生会議」有識者メンバー）



— 議会の動き (令和8年第1回定例会以降) —

- 3月30日 議会全員協議会・第3回臨時会・町監査委員選任書交付式
4月 9日 両沼地方町村議会議長会定期総会(会津坂下町)
10日 斎藤清美術館30周年プレ企画展「斎藤清と柳津」オープニングセレモニー
13日 町赤十字奉仕団総会(銀山荘)
町スポーツ協会総会(ふれあい館)
19日 町更生保護女性の会総会(ふれあい館)
20日 議会全員協議会
22日 町良寛会総会及び良寛和尚供養祭(町民センター)
30日 町花き振興協議会総会(せいざん荘)
町教育研究会総会(ふれあい館)
5月 8日 町PTA連絡協議会総会(せいざん荘)
9日 町バレーボール連盟総会(塔之坊あづまや)
11日 会津総合開発協議会国出先機関要望(仙台市)
14日 新潟県出雲崎町議会との交流会(～15日新潟県出雲崎町)
19日 議会全員協議会
20日 会津総合開発協議会中央省庁要望会(東京都)
22日 町商工会第66回通常総会(町商工会館)
26日 第1回やないづ振興公社理事会(町民センター)
29日 会津やないづ温泉開発(株)定時株主総会(町民センター)
(一財)会津柳津観光物産協会通常総会(ふれあい館)
6月 3日 議会運営委員会



うつくしま・みずウオーク2026赤べこの里柳津大会でスターターをする議長(6月6日道の駅会津柳津)



広報常任委員会で県議長会主催の議会広報研修会に参加しました(7月1日郡山市)

※議会関係の会議や会員・来賓等で出席した式典等の主なものを掲載しております

中学生議会テレビ視聴(ふれあい館・ゆきげ館)のお知らせ

開会予定日時 10月7日(水) 午前10時から

今年のテーマは「未来(将来)を見つめる」。
3年生による一般質問を行います。

ふれあい館とゆきげ館で映像配信設備による生中継をいたしますので、ぜひご覧ください。(※議場では中学生が傍聴いたします)
過去の動画は町の公式ホームページから、パソコンやスマートフォンなどを使って見られます。



ちょっと一言

厳しい暑さが続いておりますが、町民の皆様におかれましては、熱中症などにご留意いただき、健やかにお過ごしただけだと思います。

6月の議会行政調査では地域に残るものを活用した住民や企業の連携による先進的なまちおこしを調査してまいりましたが、我が町にも豊かな自然や歴史・文化、そして、人と人との温かいつながりという大きな魅力があります。

こうした地域の財産を大切に守り、次の世代へ引き継いでいくことが、これからのまちづくりには欠かせないと思います。

町議会議員として、町民の皆様の声を大切にしながら、安心して暮らせるまちづくりに向けて、議論を重ねてまいります。

今後とも、議会へのご理解とご協力をお願いするとともに、皆様とともに、より良い柳津町を築いていければ幸いです。

(小林 浩)

広報常任委員会

委員長	新井田 順一
副委員長	小 林 浩一
委員	磯 荒 明 正 彦